

【授業科目】 臨床化学検査学特論 Advanced Laboratory Clinical Chemistry

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦	4年次後期	選択	1	15	講義	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	臨床化学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識や臨床化学実習Ⅰ・Ⅱで習得した検査方法の基礎を踏まえて、実践的な検査方法を最新の内容を加味して教授する。症例や文献を参考にして生物化学的検査の過程を連続的、総合的に捉え、臨床検査結果を適切に評価・判断する力を高めることで、卒業後の実践的業務へ発展させる力をつけさせる。問題解決能力を必要とする検査データ解析に主眼をおき R-CPC 演習を導入し、他分野の検査データとの関連性を持たせ、臨床検査を総合的に理解させる。 課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する						
実務経験に関する 授業内容	臨床検査士技師の臨床経験をもつ教員が、臨床検査技師として必要な臨床化学検査の知識について、現場業務項目に関する資料・教材を交えながら指導していく科目である。						
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。						
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	① 検体採取・保存について説明できる。 ② 各検査項目の精度管理について説明できる。 ③ 検査値から病態を推測することをしっかり理解し、他分野の検査値と比較し病態を説明できる。						
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	臨床化学検査学Ⅰ・Ⅱ、臨床化学検査学実習Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎的な内容をしっかり理解し、分析化学で学んだ手法も基本となるためしっかり復習しておくこと。 第1回～8回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく（各30分） 第1回～8回事後学習：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各30分） ※その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すこともある（各60分）。 上記例は、1単位8回科目の場合で、予習+復習に必用な時間は、1時間／1回となる。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。						
授業計画	第1回 電解質、微量元素、細胞の構造など 第2回 蛋白質、アミノ酸 第3回 非蛋白性窒素 第4回 糖質、生命の代謝とエネルギー 第5回 脂質 第6回 ビリルビン、生体色素 第7回 酵素 第8回 ホルモン、血中薬物濃度測定、NST、機能検査					全て高崎	
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 適宜行う小テスト 50% 学期末試験50%						
教科書	プリントを配付します。			参考書等	なし		
学生への メッセージ	臨床化学検査学分野の総まとめの科目となる。特に疾患と検査データの関係、正確な病態把握ができるよう知識をまとめてほしい。						